

平成29年度第2回 習志野市子ども・子育て会議 会議録

【開催日時・場所】

平成29年9月28日（木） 17時00分～19時30分 市庁舎3階会議室C

【出席者】

（委員）※50音順

阿久津委員、飯島委員、伊藤委員、稲垣委員、大塚委員、栢委員、倉信委員、小西委員、
田久保委員、横澤委員、米本委員

（市）

竹田子ども部長、小澤子ども部次長、鶴沢子ども保育課長、新井同課係長、伊東同課係長、
秋田同課係長、家弓あじさい療育支援センター所長、安達子育て支援課長、橋本同課係長、
鈴木同課係長、芹澤児童育成課長、北澤同課係長、山口ひまわり発達相談センター所長、
児玉健康福祉部主幹

（事務局）

小野寺子ども政策課長、藤代同課係長、松岡同課係長、伊藤（崇）同課主任主事、
伊藤（幹）同課主任主事

【傍聴人数】

0人

【次第】

1. 開会

2. 議題

- （1）習志野市子ども・子育て支援事業計画の中間見直しについて（協議）
- （2）習志野市子どもの生活に関する実態調査について（報告）

3. その他

4. 閉会

【配布資料】

- ・ 次第
- ・ 資料1：習志野市子ども・子育て支援事業計画の中間見直しについて
- ・ 資料2：子どもの生活に関する実態調査について
- ・ 資料3：設問比較表
- ・ 資料4：習志野市子どもの生活に関する実態調査設問案
- ・ 資料5：習志野市子どもの生活に関する実態調査表（子ども用）（案）
- ・ 資料6：習志野市子どもの生活に関する実態調査表（保護者用）（案）
- ・ 参考1：近隣市における放課後児童会に勤務する職員の待遇について（平成29年度）
- ・ 参考2：待機児童数の把握方法について
- ・ その他1：保育所等の整備計画
- ・ その他2：第七中学校区における市立子ども園の設置について

1. 開会

※議題の審議に先立ち、前回の会議にて要求あった資料について、説明。

<芹澤児童育成課長>

資料（参考1）に基づき、近隣市における放課後児童会に勤務する職員の待遇について説明。

<横澤委員>

鎌ヶ谷市の待機児童数がゼロとなっているが、待機児童の定義は各市まちまちなのか。

<芹澤児童育成課長>

他市のカウントの仕方については把握していない。本市は、毎月1～12日受付、18日前後に入会審査、そのとき不承諾になったお子さんを、待機児童としている。

<稲垣会長>

一般的に待機児童というのは、申込みがあったが、サービス利用に当たらなかった方をいう。人口の高齢化や家族の就業状況による地域格差により、待機児童の発生数の差はあると思う。

<小西委員>

船橋が、公設公営が習志野の4倍以上あるが、支援員をどうやって確保されているのか、疑問に思った。

<芹澤児童育成課長>

船橋市においても、支援員確保に苦労している様である。習志野は国の基準よりも手厚い体制をとっており、船橋市の基準については確認していないが、全国的には、支援員の確保のために、賃金を上げたり、研修制度をさまざま工夫したりなどの取組をしていると伺っている。

<小西委員>

鎌ヶ谷市について、習志野市より賃金が安い待機児童がゼロのため、支援員を確保する手段が、賃金だけではないのだと感じた。習志野市学童保育連絡協議会で要望書をまとめているが、アンケートをみると、4年生以上の待機児童を解消してほしいという意見が多い。引き続き、支援員の確保に向け取り組みをして欲しい。

<鶴沢こども保育課長>

資料（参考2）に基づき、待機児童数の把握方法について説明。

<飯塚委員>

保育所を整備しても、需要が喚起されて待機児童はなくなるという話を聞く。全国レベルで待機児童数を比較した報道がされているが、待機児童数を、各自自治体で比べることに、どのくらい意味があるのか疑問に感じた。

<稲垣会長>

妥当な指摘だと思う。児童福祉法が改正され、保育に欠ける要件が変わった。従来は、保護者の就労等で保育が困難な状況を保育に欠けるとなっていたが、保育に難しさを感じている保護者の方たちも保育に欠ける要件となり、何らかの事情で、お子さんを育てることが難しくなった方は、行政に相談し、保育所をお願いすることも可能となっている。地域の中で、近隣のサポートを頼る方法がないわけではないが、それが難しいと公的サービスを頼らざるを得ない。そのため、保育ニーズは流動的であり、本

当のニーズを把握するのは難しい。地域の中で保育に困っている人が、SOSを言える環境となればよいと思う。

2. 議題

(1) 習志野市子ども・子育て支援事業計画の中間見直しについて（協議）

<小野寺こども政策課長>

資料1、その他資料2に基づき、教育・保育施設の現況・実績について説明。

<芹澤児童育成課長>

資料1に基づき、放課後児童会の実績について説明。

<稲垣会長>

資料に専門的な用語が使用されているため、読解をしやすいするために、用語を説明している参考資料を次回の会議時に用意してほしい。

<田久保委員>

具体的な数値のみの資料から、意見を言うのは難しい。どの部分のサービスが充足・不足してるのかなど、文章にしてもらった方が、分かりやすく、意見がしやすい。

<大塚委員>

言葉の確認をしたい。資料1の中で、「必要量」「在園児数と不承諾者数」「確保方策」という言葉があるが、【資料1 3. 保育の希望者数の推移】では、「必要量」と「在園児数と不承諾者数」を比べており、【資料1 7. 計画策定時の必要量と現在の確保方策】では、「必要量」と「確保方策」を比べており、混乱する。

<小野寺こども政策課長>

「必要量」は、計画策定時に想定した必要であろうと予測した数字で、「在園児数と不承諾者数」は現に申し込んだ人数となっている。「確保方策」は、施設の定員による受皿の確保数である。資料1の3では、「必要量」と実際に申し込んだ人の数を比べており、資料1の7では、「必要量」と実際に整備をした施設の定員の受皿の確保数を比べている。今回は、分かりやすい資料としたい。

<稲垣会長>

「必要」というと「今必要としている数」と思ってしまうが、「必要量」は、計画を策定するにあたり、根拠をもって算出した数である。言葉が誤解なく伝わるようにしてほしい。

また、必要量の算出の仕方が正しかったのかの検証についても検討してほしい。また、奏の杜地区などの開発が盛んな地区と、そうでない地区で、差があるのであれば、次回説明していただきたい。

<飯塚議員>

資料1は平成25年度の人口推計を基に作られているが、この人口推計には、奏の杜地区の増加については、反映されているのか。今後、見直し案を作成する上で、把握している大きな開発については、数に加えるべきだと思うが、将来の大規模開発について、数に反映することは、そもそも可能なのか。

<小野寺こども政策課長>

人口推計には、奏の杜の増加要因も包含されている。人口推計は、市の計画の根幹となっているものであり、今回の見直しでは、平成25年度の人口推計を利用することとなる。来年度以降に人口推計を実施する見込みがあるため、次年度の計画策定時には、新しい人口推計で計画を立てることが出来る。現

実的に、大きな開発については、必要量に含めるべきものと考えている。

<稲垣会長>

絶対的合理的な数字をあげることは難しいと思うが、ここの地域については他よりも少し増減が大きいであろうなど、若干の変数の予測など、推論は立つと思う。

<小西委員>

放課後児童会について、特に上学年の受入について、定員を増やすために努力をしているのが分かった。習志野市学童保育連絡協議会の中で、4年生以上の受け入れの仕方について、考えてほしいという意見があった。特に上学年だと、塾や習い事で必ずしも平日ずっと学童を利用するわけではないが、長期の休みの利用が多いようである。上学年については、子どもの利用状況や使用頻度に合わせて、数字を細かくした方が、統計がとりやすいかなという印象を受けた。

<稲垣会長>

丁寧なニーズ調査をし、統計をとってほしいという要望かと思う。

計画全体のバランスとして、調査は多項目にわたるため、ある1つのサービスだけ細かくニーズ調査をしてしまうと、そこだけ要望が細かく高く上がってしまい、他のところが出てこないということになってしまうので、全体のバランスをみながら、可能な限りのニーズ調査をさせていただく。中間見直しではニーズ調査は行わないため、次の計画策定の際のニーズ調査の参考ということによいか。

<芹澤児童育成課長>

新たな計画を策定する際に、ニーズ調査を実施する見込みである。中間見直しについては、これまでの実績を十分に分析し、新しいニーズがどう加わっていくのか、検討したい。見直しをするにあたっての新たな視点について、御意見いただきたい。

(2) 習志野市子どもの生活に関する実態調査について（報告）

<小野寺こども政策課長>

資料2～6に基づき、習志野市子どもの生活に関する実態調査の調査方法及び調査票について報告。

<稲垣会長>

調査項目については、関係各課が政策立案をするうえで参考となる項目を加えた、設計となっている。調査を実施するにあたり、要望等あれば、御意見いただきたい。

<栢委員>

子ども用の調査票では、項目ごとに、項目を聞く理由が記載されているが、その理由を読まずに回答する子どもが多いことが予想される。

子ども用調査票の表紙には、「習志野市は子ども達の意見を聞いて、市の取り組みの参考にしていこう」という大切なメッセージが書いてあるため、調査を学校の教室で実施する際に、先生を通してそのメッセージが子ども達に届き、自分たちの意見がまちづくりに活かされるかもしれない、自分たちの意見を言ってもいいのだという体験のひとつになると思う。

保護者の調査票を、学校を介して回収したほうが回収率が上がると思うが、なぜ郵送回収としたのか。

<小野寺こども政策課長>

保護者用の調査票は、世帯の所得の状況など、一步踏み込んだ内容となっている。誤って、子どもが封を開けてしまう可能性もあるため、保護者が気兼ねなく記載できるよう、直接ポスト投函で提出できる方法とした。

子ども達に、調査の目的に関するメッセージが届くよう、学校にお願いしたい。

<稲垣会長>

非常にデリケートな内容の設問もあり、子どもを思う親ゆえに、子ども達に知られたくない思いなどが書かれた調査票をアクシデントで子どもが見た時の事を考えると、保護者の調査票は親が責任を持って封をし、ポスト投函をする形がよろしいかと思う。

<横澤委員>

子ども用の調査票で、フリガナが漏れているところがある。再度確認していただきたい。

3. その他

<小野寺こども政策課長>

資料【その他2】に基づき、第七中学校区における市立こども園の設置について、市としての方針を説明。

<稲垣会長>

入園状況の実態のほか、特にこども園は、子育て支援の様々な地域支援のサービスの拠点であり、地域における資源のバランスを考え、袖ヶ浦こども園が近接にある秋津地域よりも、香澄地域に、こども園を設置したいとの説明かと思う。

※資料【その他2】に関する質疑なし。

<横澤委員>

先日、保育所登園するために自転車に乗っている親子が、通園途中で転倒し、子どもが頭にけがをした場面に出くわした。子どもはヘルメットをしていなかった。該当の保育園の先生に伝え、保護者に対し注意を呼びかけてもらう方法もあるが、それだけでは十分ではないと考える。ヘルメットをかぶっていたら、よかったのかもしれないが、呼びかける以外の手立てをしてもらうことはできるか。

<阿久津委員>

私立保育所の園長をしている。朝の混雑する時間は、職員が道路に立ち、車等の交通整理をしている。保護者にも一つひとつ説明をし、みなさんはヘルメットをかぶって来てくれている。

保護者や地域住民と真摯に向き合い、保護者に伝えなければならないことはきちんと伝え、園がやらなければならないことはきちんと行っている。一つひとつ解決していくべきである。

<米本委員>

公立こども園の園長をしている。保護者と子どもが安全に通うために、どんなことが必要かということアナウンスすることがとても大事。一度言って、すべて皆さんが守ってくれるかということ、なかなか難しいことがあるため、定期的に伝えることが必要だと考えている。子ども達に交通安全指導をしている。子どものヘルメット着用については、努力義務となっており、絶対にかぶって下さいとは言えないが、子どもの命を守るためにお願いしたいということで、園からは定期的に伝えている。

第七中学校区におけるこども園については、通園方法が、徒歩・自転車・車・公共交通機関と多岐にわたるため、それぞれの方法で安全に通うためにはどんなことが必要なのかをはじめに決めて、保護者や子どもに説明することが大事だと思う。

<稲垣会長>

子どもの特性や体調によりヘルメットを嫌がったり、また、朝の送り時間が時間ギリギリとなってしまう、保護者が急いでしまう場合があると思うため、優しい声掛けをして、焦らずに来て下さるようフォローをしていただければと思う。

一番つらいのは責められることであり、保護者を責めず、暖かな目で見えてほしい。責められることで助言が聞き入れなくなってしまうので、つらさや困難に寄り添って声をかけると届きやすいと思う。事業所や行政にも、温かいサポートが届くような努力をしてほしい。暖かく、子育てをしている家庭をサポートできるように、知恵を絞っていただければと思う。

【所属課】

こども政策課

電話番号：047-451-1151（内線 442、433）

FAX 番号：047-453-5512